

麻しん(はしか)患者の発生に伴う注意喚起について

令和7年5月11日(日)、市内の医療機関から麻しんの発生届(臨床診断例)が提出され、遺伝子検査を実施したところ、陽性であることが5月13日に判明しました。

福井市保健所が積極的疫学調査を行った結果、他の人に感染させる可能性がある時期(感染可能期間)に、下記のとおり接触者を特定できない施設を利用していたことが分かりました。

本公表は、患者と接触した可能性のある方への注意喚起として広く情報提供するものです。

1 麻しん患者の利用施設等

日 時	施 設 等
5月5日(月) 7時20分～8時30分頃まで	ベトナム航空 VN320 便 ホーチミン発 関西国際空港 第1ターミナル
5月7日(水) 9時50分～10時40分頃まで	福井市役所保険年金課

※施設等へのお問合せは控えください。

※麻しんウイルスの空気中での生存期間は、2時間以下とされています。現時点において麻しん患者が利用した施設等を利用しても、感染の心配はありません。

2 上記日時に当該施設を利用された皆様へ

- ・利用日から3週間(21日間)の間に麻しんを疑う症状(発熱、咳、鼻水等)が現れた場合は、医療機関へ麻しんの疑いがあることを事前に連絡し、マスク着用の上、受診してください。
- ・受診の際は周囲の方へ感染させないため、公共交通機関等の利用は避けてください。

3 患者等の状況

- ① 患者：市内在住の男性 50代 麻しん予防接種歴不明
- ② 主な症状：発熱、鼻水、咳、発疹、コプリック斑
- ③ 経過：発症日5月5日、現在入院中。

4 本市内における麻しんの発生状況

(令和7年5月13日現在)

年次	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
市	0	0	0	0	0	1
県	0	0	0	0	0	1
全国	10	6	6	28	45※	96※

※令和7年4月30日時点速報値

5 麻しんについて

- ・感染すると約10～12日後、38℃程度の熱や咳、鼻水など、風邪のような症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現し、口腔内に白い粘膜疹(コプリック斑)が現れます。
- ・感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染で、感染力は非常に強いといわれています。
- ・麻しんの定期予防接種は1歳児、就学前の幼児です。対象者は早めに受けましょう。

(参考)

・厚生労働省 麻疹について

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaaku-kansenshou/measles/index.html

・国立健康危機管理研究機構 麻疹 発生動向調査

<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/measlesdoko.html>